

倫理法人会における倫理経営の学習の特徴の一つに「起こるすべて、これがよい」と受容することが挙げられます。そうすることで、苦難から脱却し、事業繁栄の基礎を築くことができるのです。

人はたとえ困難な状況であったとしても、一切を肯定的に受け容れる姿勢に立ち返った時、危難を回避できることのみならず、その受け止めた心の通りに境遇が好転することを、多くの会友が経験してきました。

栄枯盛衰は世の習いと言われるように、事業だけでなく、日本全体の経済状況においても、数年から数十年単位で浮き沈みの状態が交互に表われます。その際、好景気だからといって浮かれていると足元を掬われ痛い目にあうことがあります。逆に、不況だからといって心を腐らせてしまうと、上昇の機運を取り逃がしてしまうことを経験的に学んだという人も多いでしょう。

つまり、苦難の乗り越え方は、前述の通り、物事を肯定的に受け止めることです。具体的には、自社の経済状況が苦しくなるとしても、「有ってよし、無くてよし、どちらもよし、すべてよし」と、大胆に受け切ってしまうことです。

良いからといって奢らず、悪いからといって心を背けないことです。起きるすべての現象には原因があり、意味（その人がより良くなるためのメッセージ）があるからです。だからこそ、その意味を解読しつつ、苦難を向上のチャンスとして、生かそうとする心のレッスンをすすめるのです。



起こる事すべては私のため 心の通りに境遇が好転する

ある女性の事例です。生活の足として使っていた自転車が盗まれてしまったのです。倫理指導を受けると講師から、「物に困らされる事態は、物を粗末に扱っている生活によって起きるものです」と教えられました。また、「物の象徴が金銭であり、物を粗末にする、即ち、お金を粗末にすることになりますから、それでは経済状況も良くなりませんね」とも告げられました。

さらに、「あなたの物を大切にしない生活は、経済の困窮につながります。確かに他者の物を盗んではいけません。しかし、自転車泥棒は、あなたに、物を大事にすることで経済的に豊かになってもらいたいとのメッセージを送ってくれたと受容してみたいかがでしょうか。決して、嫌がったり腹を立てたりするのではなく、感謝することです」と、きっぱりと言われたのでした。

女性は、指導をにわかには受け入れ難く、最初は戸惑いましたが、その教えの通りに「泥棒さん、ありがとう」と心の中で言ってみました。そして、キッチン回りやクロ―ゼットの中など不要な物を処分すると共に、管理できる物を大切にすることを学びました。すると、警察署から自転車が見つかったとの知らせが入ったのです。しばらくすると、会社勤めの夫が思いがけない昇進を果たし、以前よりも経済的にゆとりが生まれるという結果に至りました。

肯定的思考による喜びの体験を一人でも多くの人に味わってほしいものです。